

2023 年度

事業計画

2023年3月31日

学校法人 上智学院

はじめに

学校法人上智学院は、高等教育部門・中等教育部門の各学校に係る中長期の将来構想として、2019年度から2023年度を対象期間とする「グランド・レイアウト 2.1」（以下 GL2.1）およびその実施計画であるアクションプラン（以下、AP）を構想し、これに基づく年度ごとの事業計画を立て実施することで、法人の設置する各学校の運営を行ってまいりました。

しかしながら、特にコロナ禍を経て加速度的に進んだ社会情勢の変化に対応する必要から、GL2.1は当初想定より一年繰り上げた2022年度までの運用とし、この度、2023年度から2030年度を対象期間とする新たな中長期計画「グランド・レイアウト 3.0—2030に向けて—」（以下、GL3.0）を策定いたしました。

GL3.0では、部門ごとに2030年までに達成を目指す様々な目標を掲げ、それを整理して取り纏めた「2030年に向けた『10』のコミットメント」として具体的に提示しています。本「コミットメント」に示したように、デジタル・グリーン環境・サステナビリティなどの技術革新・事業変革が目覚ましい時代にあっても、本学院が具現化すべき基本理念を堅持しつつ、学生・生徒・教職員が一体となって教育研究を着実に推し進め、社会・地域への貢献も果たしていくことを目指してまいります。

このGL3.0の初年度に実施する単年度計画として、以下の通り2023年度事業計画を策定いたしましたので、ここに公表いたします。

引き続き、本学院の各設置校の教育研究社会貢献の諸活動に一層のご理解とご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

目次

「グランド・レイアウト 3.0」概念図／コミットメント	3
部門別取り組みの柱	4
GL3.0（部門計画・AP）および2023年度事業計画	
・大学部門	5
・短大部門	10
・中等教育部門	
栄光学園	11
六甲学院	13
広島学院	17
上智福岡	20
・法人部門	24
2023年度予算編成の基本方針	29
2023年度資金収支予算（学院）	31
2023年度事業活動収支予算（学院）	32

上智学院中長期計画「グランド・レイアウト 3.0 -2030 に向けて-」

基本理念

「他者のために、他者とともに（For Others, With Others）」生きる人の育成
「叡智（ソフィア）が世界をつなぐ / Sophia - Bringing the World Together」を基盤とした教育・研究・社会貢献の実現

部門共通・3つの方針

1. 基本理念の具現化（世界の課題解決に貢献する教育研究の実践）
2. 選ばれ続ける学校としてのエンゲージメントの強化
3. 持続的な発展のための財務基盤・運営体制強化

2030年に向けた「10」のコミットメント

MAGISを目指す

上智学院とその設置校は、イエズス会学校としてカトリック学校としての伝統を堅持し、その特色を活かしながら、世界の課題解決や社会変化に積極的に対応することで、より良い世界の創造・世界の調和に貢献し、卓越した存在を目指します。

① GX・SXの推進による共に暮らす家（地球）への配慮

- カーボンニュートラルの実現
- ラウダート・シ/UAPs
- 持続可能な未来の創造に貢献



② DXによる新たな教育研究運営へのシフト

- 教育DXの促進
- DXによる運営の効率化



③ 共生社会実現への貢献（課題解決に向けた教育・研究の展開）

- SDGs/ESG投資
- 人間の尊厳 / 社会正義
- 全ての人のウェルビーイング



④ グローカルにつなぐ（地域や世界につながるグローバルハブに）

- グローバルワンキャンパス
- グローバルネットワーク
- 世界水準の研究



⑤ 教育機会拡大への貢献（他者に寄り添い、未来へつなぐ教育の展開）

- 新たな社会人教育
- 産学共同プログラム
- 社会的弱者の支援と貢献



⑥ DEI&Bの推進（ひとりひとりを大切に、安心・安全な学校に）

- 構成員の安心・安全・ウェルビーイング
- 障がい者採用 / ウーマンエンパワーメント



⑦ 社会・地域連携：エンゲージメントの促進（ステークホルダーとの対話・発信・連携・共感）

- 地域・企業・社会との連携
- ステークホルダーとのコミュニケーション
- 他の学校とのアライアンス



⑧ 迅速・柔軟かつ効率的な運営（マネジメントの精査）

- ガバナンス改革
- コンプライアンス
- データドリブンマネジメント



⑨ 学内融合と連動：エンゲージメントの強化（学校間の連携、教学・法人の連動）

- 各学校の連携
- 教学と人事・財務・施設・ICTの連動



⑩ 全員参画とコミットメント（ソフィアファミリー全構成員の共同識別と協働）

- 構成員への説明と意見聴取
- 学生・生徒（若者）とともに



【部門別】取り組みの柱

大学部門

Pride in Sophia Quality：人の育成、研究、グローバル社会への貢献という全方位に卓越するSophia Qualityの追求

・グローバル社会から信頼を得る総合大学として、世界水準の教育、研究を推進することにより、新しい社会の創造に貢献する
・卓越したグローバル教育と、自らがデザインし個の基盤を深める多層的な学びの場を提供し、“他者に寄り添うリーダー”たるSophianを育成する
・次代型教育・研究環境の確立、共生社会の具現化、ステークホルダーとの対話を通し、求心力のあるグローバル・ワンキャンパスを創成する

1. グローバルな視野とローカルな視点で他者に寄り添い、未来を創るSophianの育成
2. グローバル社会に貢献する世界水準の研究の推進・拠点の確立
3. サステナビリティを高水準で実現するグローバル・ワンキャンパスの確立
4. グローバル社会および多様なステークホルダーとの連携強化
5. 持続的発展を力強く支える組織、財務基盤の確立

短大部門

1. 地域社会の課題解決を目指す教育研究活動を実践する
2. 学生の進路選択を可能とする教育プログラムを充実する
3. 安定的な学校運営のための環境を整備する

中等教育部門

- I イエズス会学校であり続ける
- II 地域社会に魅力的な学校であり続ける
- III 教育環境／組織人員体制を整える

1. イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う
2. イエズス会教育を継承する、担い手を養成する
3. 上智大学との繋がりを持ち続ける

法人部門（学校法人運営基盤）

1. 持続可能な社会に貢献し、社会的責任を果たすための体制を強化する
(ラウダート・シを意識)
2. 豊かな学びを支える安心・安全・快適なキャンパス環境を整備する
3. 教育研究の持続的発展を可能とする財務基盤をより一層強化する
4. 組織力を高める人事政策を実行する

「2030年に向けた『10』のコミットメント」を実現するために、各部門が有機的に連携し施策を実施

GL3.0（部門計画・AP）および2023年度事業計画

大学部門

GL3.0（部門計画・AP）	2023年度事業計画
1. グローバルな視野とローカルな視点で他者に寄り添い、未来を創るSophianの育成	
（1）学び続け、主体的に考え行動する力を育てるSophia型「基盤教育」の確立	
①全学共通、語学、学科科目の有機的連携を実現し、社会情勢や学生の様々な希望進路のニーズに応え得る、基盤教育を確立する	<ul style="list-style-type: none"> 既存の科目の整理および教養を横断的に身に付けることができる科目や社会課題に対応する科目の配置検討 全学共通、語学、学科科目のさらなる連携に向けた検討 成長分野牽引といった社会の要請に応じた取り組みに関する検討
②学生の自律した学びのデザインをサポートする、科目の体系化の推進、充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 全学共通科目必修科目と連携した学科科目配置の検討 変化する社会や学生のニーズに対応し得る、全学共通、語学、学科科目連携の履修モデルの検討、提示
③学修時間や学びの深さを確保するため、科目数削減等を視野に入れたカリキュラムの再構築を検討、実践する	<ul style="list-style-type: none"> CAP制度（単位上限設定）の見直しの検討 クォーター科目拡大に向けた検討 その他学生の深い学びと単位の実質化のための具体策の検討
④多様な進路を視野に入れた大学院教育および体制のあり方について、専攻の特性を活かした対応策を立案のうえ実行する	<ul style="list-style-type: none"> 修了者の進路状況の調査、把握 定員充足率の改善に向けた、入試、カリキュラム、進路のフォローアップ等各側面からの対応策の検討 学内進学者を増やす方策の検討 学内「3+2」制度（早期卒業制度活用による学士課程3年＋博士前期・修士課程2年の一環教育）の拡充に向けた検討
（2）多角的・俯瞰的視座の醸成に向けた学びや経験の場の提供と、全世界へのフィールド展開	
①現代社会の課題に取り組む多様な実践型プログラムを構築し、より多くの学生へ機会を提供する	<ul style="list-style-type: none"> 現行実施しているプログラムの拡充と見直し 本学の建学の理念、教育精神を体現するプログラムの検討、提示 より多くの学生が参加できるような短期留学・研修、実践型等多様なプログラムの検討
②国内外の大学との連携を深化し、学部、大学院における多様な教育、研究活動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の大学等との連携の強化および見直し、深化するべき方向性の検討 協定校が提供する長期休暇中プログラムを利用した海外短期研修の充実化等 大学院生および学部生の留学促進に向けた取り組みの検討
③次世代型の教育方法の開発と検証を推進するとともに、柔軟な授業展開の仕組みを構築する	<ul style="list-style-type: none"> オンラインを活用した海外招聘教員や海外非常勤講師等による授業展開導入の検討、推進 COIL[※]型授業の継続的な導入促進策の検討 良質なオンデマンド教材の作成などオンライン授業の充実に向けた支援体制構築の検討 FD委員会と基盤教育センター教育開発領域の機能統合に向けた検討、体制構築 <p>※COIL（Collaborative Online International Learning）：国際協働オンライン学習プログラム</p>
④ボランティアや教育プログラム等を含む多様な課外活動の充実を図り、教育精神の涵養とともに人間的な成長を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動支援、課外活動団体支援等の拡充 SDGsに代表される社会課題の解決に向けた域学連携を積極的に活用し、学生が主体的に学ぶ機会を提供 教育精神の体現につながる講座等の開催
（3）高校生-大学生-社会人の多層的な学びの実現	
①本学の特色を活かした教育プログラムを開発、展開し、年齢や国籍等を問わず学びの欲求に応える体制を整備する	<ul style="list-style-type: none"> 広く市民に開かれた教養講座の検討 高校生を対象とした体験型プログラムの検討 産学共同講座「プロフェッショナル・スタディーズ」の発展的拡充を目指した取り組みの検討 社会人に向けたリスキリング教育の場の提供に向けた検討 多様なキャリアや生き方を考える機会を提供するプログラムの開発 これらを実現するための組織体制の検討、構築

大学部門

GL3.0（部門計画・AP）	2023年度事業計画
2. グローバル社会に貢献する世界水準の研究の推進・拠点の確立	
（1）高水準の研究の推進と、それを支える人的および組織的体制の増強	
①高水準、分野横断型の研究申請から採択後までを包括的に支援する事務体制を確立する	・高水準の研究を支えるための事務体制の機能強化および国際化の推進
②国際共同研究推奨施策を拡充する	・国際共同研究に係る適時な情報提供と支援体制の検討
③研究費獲得、研究マッチング、研究遂行を支援・推進するURA（University Research Administrator）を配置する	・URAの配置による戦略的研究支援体制の整備
④教育・研究・大学運営・社会貢献のよりよいバランスを考慮した上で教員の研究時間を確保する	・パイアウト制度の運用状況のレビュー・更新および類似の仕組みの検討 ・クォーター制度を活用した研究時間の確保の検討 ・大学が推進する事業への優れた貢献に基づいたパイアウト等を可能とする制度の検討
⑤研究機構、附置研究所における中長期研究計画の策定とモニタリング体制を確立する	・研究所（附置研究所を含む）の位置づけを明確にした上での、研究計画策定と研究成果の評価体制整備 ・研究成果に基づく研究所評価のあり方に関する検討
（2）時代・社会の課題に応える本学の特色を生かした研究の推進	
①時代や社会の要請に加え、現代のカトリック教会やイエズス会が取り上げる課題の解決に資する世界水準の研究を推進する	・大学としての研究重点方針・研究強化の方向性の確認とその遂行
②多様な分野・組織間の連携促進による分野横断型研究を推進する	・本学が有する様々な研究単位（学部・学科、研究所等）間の研究交流を促進し、研究成果につなげるための仕組みの検討
③既存の国際研究ネットワークも活用し、本学の特色を生かした研究拠点を構築する	・MIRAI2.0 [※] 、SACRU [※] を活用した国際共著論文数の拡大促進と、研究拠点の確立 ・本学の特色を生かせる研究テーマに関する研究の推進支援 <small>※MIRAI2.0：日本とスウェーデンの大学による共同研究促進プログラム ※SACRU（The Strategic Alliance of Catholic Research Universities）：グローバルな課題解決に積極的に取り組む世界のカトリック大学ネットワーク</small>
④研究成果の公表および発信を強化し、研究力のレピュテーション向上を実現する	・国際通用性の高い査読付き国際誌への投稿にかかるオープンアクセス費用支援を通じた投稿数の拡大および被引用率の向上 ・本学教員の発表論文に関するプレスリリース数の拡大による被引用率の向上
（3）若手研究者、女性研究者支援の促進	
①博士課程学生をはじめとする若手研究者および女性研究者支援制度を拡充する	・学術研究特別推進費の自由課題研究への女性研究者採択枠を新設 ・若手研究者支援制度のレビューおよび改善 ・若手研究者、女性研究者との対話を通じた支援制度の構築
②研究倫理、研究公正、各種法令等に係る教育・支援体制を整備する	・研究倫理・研究公正に係る国の指針・法令等の更新を踏まえた、本学関連規程の見直し ・研究倫理教育推進体制の見直し・整備

大学部門

GL3.0 (部門計画・AP)	2023年度事業計画
3. サステナビリティを高水準で実現するグローバル・ワンキャンパスの確立	
(1) 多様性を尊重し、すべての立場の構成員が心地よく学び、働くことができる環境の確立	
①差別や偏見、ハラスメントのない誰にとっても安心できるキャンパスを構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・課題把握のためのアンケート調査の実施 ・教職員研修の実施および対応力の強化 ・学生向け各種啓発・防止セミナー等の実施
②ワンキャンパスを活かした多様な学生間の交流機会を提供する	<ul style="list-style-type: none"> ・SSIC (Sophia Student Integration Commons) で展開している学生交流企画の充実およびニーズ把握と振返りによる新規プログラムの開発 ・国際寮の教育プログラムの充実および成長実感の確認 ・交換留学生サポーター活動の更なる活性化
③共生社会が実現されるキャンパス環境の整備を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語対応、専門家の強化 ・LGBTQに関する対応等の策定 ・障がい学生支援の充実
④ひとりひとりが個性を発揮し、自らの人生を切り開くキャリア支援施策を構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に柔軟に対応したガイダンス等の見直し ・多様な学生のキャリア支援の強化 ・大学院生のキャリア支援の強化 ・留学生のキャリア支援の強化 ・キャリア教育の見直し
(2) サステナビリティ推進のための体制充実および取り組みの高度化	
①多様な学生が心身ともに健やかに学生生活をおくるための支援体制を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援にかかる専門家、多言語対応、事務体制の強化 ・学生の健康指導の実施 ・学内のみならず学外のリソースも活用した学生支援の連携強化 ・学生相談室の増室 ・新執務室の検討および他大学等視察・ヒアリング ・コロナ禍の影響による心身のサポートの継続
②学生の学びや社会情勢により柔軟に対応する奨学金制度を設計する	<ul style="list-style-type: none"> ・国の最新施策や検討状況を踏まえた支援方針の見直し ・学びのセーフティーネットとしての機能を維持するとともにメリットベース(成績優秀者・大学院生・留学生等)の支援拡充 ・各種奨学金の整理・統合の検討
③学生が提案する新たな取り組み等を実現に導く仕組みと学生および教職員(学教職)の更なる協働体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が企画する提案について精査する観点(継続性や学生の成長に資する内容であるか等)の整理と支援方法の検討 ・学教職協働によるプロジェクトの推進
(3) グローバル・ハブとしてのキャンパス機能のさらなる拡充と、最新のICTを活用したキャンパス環境の整備	
①学生サービスの向上や環境に配慮した情報管理のICT化を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が利用する各種予約のシステム化 ・健康管理システムのリニューアル ・学生用ポータルアプリの導入(第1期計画) ・学修ポートフォリオシステムの認証機能強化 ・事務部署における学生面談等予約システムの導入と利用部署の拡大
②オンライン授業環境を充実させるとともに、ICTの進展にあわせた教育DX(新たな教育環境の整備等)を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システム室が学修環境改善を目指して新設した教室の機能強化 ・基盤教育センターとも連携し、ICTを活用した授業支援体制の強化
③研究データ管理、研究インフラ整備、研究コミュニティの醸成などにおける研究DXの取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・研究データ管理に係る情報収集と研究データマネジメントポリシー策定準備 ・研究データ管理に係る関連部署(研究推進、図書館、ICT)間の連携と役割分担の検討
④図書館の学術情報収集・蓄積・提供機能の高度化に対応する	<ul style="list-style-type: none"> ・学術情報の電子化の推進(紙資料から電子資料へ転換、電子資料の優先購入など) ・学術情報リポジトリを通じた学術論文等のオープン化推進に向けたルール等の策定と公表 ・図書館システムの利用者サービス向上を図るための機能改善の検討と予算申請 ・学術情報リポジトリのシステム改善に係る検討と予算申請 ・学術情報の集積、管理、発信の強化に向けた人材の確保と育成 ・図書館システム専用端末の事務系システム端末への統合検討 ・オープンサイエンス時代に対応した図書館の将来計画の検討

大学部門

GL3.0 (部門計画・AP)	2023年度事業計画
4. グローバル社会および多様なステークホルダーとの連携強化	
(1) 多様なステークホルダーとの対話の充実	
①卒業生とのネットワーク強化を含む、ステークホルダー・エンゲージメントを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のキャリア支援におけるソフィア会との連携強化 ・卒業生との双方向コミュニケーションを活性化させるホームカミングイベントなどの検討着手 ・卒業生同士のネットワーキングに資する機会の提供 ・卒業生と大学、学生との接点を増やす企画、また卒業生の多様なネットワークを活用した企画の実施 ・保証人への情報発信の見直し（「上智大学通信」のリニューアルの検討）
②近隣地域における知と活動の拠点として、自治体に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣機関（東京都・千代田区・麹町消防署・麹町警察等）との連携による、学生の実践を通じた社会貢献の実施
(2) IR (Institutional Research) および広報機能の強化によるレピュテーションマネジメントの実践	
①IRを活用したエビデンスに基づく決定と検証を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・事務部署でのデータ活用の推進（奨学金や進路等学生支援に関する各種データの分析） ・本学の研究力や研究レピュテーションに係るデータの分析
②グローバル・レピュテーション向上のための戦略的取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・世界ランキング向上への努力、世界ランキングに現れない価値を図るレピュテーション指標の設定 ・企業から見た本学についての調査実施および分析 ・本学教員の発表論文に関する日英プレスリリースのタイムリーな発信と発信数の拡大 ・学部、研究所等の統一感のあるWebサイトの構築着手
③志の高い志願者の確保や、入学者の多様性を広げるための取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・現行入試制度の安定的稼働と定着 ・優れた志願者を確保するための新たな入試制度の検討 ・優れた海外留学生を確保するための入試広報の検討 ・新たな入学者確保のため、地方にターゲットを絞った広報活動の開始
④イエズス会中高4校および国内外の中等教育機関との連携を強化する取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・カトリック高校との新たな関係性を見出す連携関係の構築
(3) 社会の課題解決に向けた産官および市民社会との協働の積極的推進	
①地域、企業、団体等と連携した先駆的取り組みを推進し、社会課題の解決に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ・企業・自治体等との共同研究、委託研究の促進とそのための施策の検討
②カトリック大学、イエズス会大学との連携を深化させ、教育研究を通じたグローバル社会の課題解決の取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・カトリック大学、イエズス会大学との連携を深化させるための取り組みを実施（研究・教育で具体的な連携につなげる） ・IAJU[※]やAJCU-AP[※]等の積極的活用による世界のイエズス会大学との教育研究連携の強化 ・ウクライナ避難民含めた今後の難民支援・開発地域への支援体制の検討 <p style="font-size: small; margin-top: 10px;"> ※IAJU (International Association of Jesuit Universities) : 国際イエズス会大学連盟 ※AJCU-AP (Association of Jesuit Colleges and Universities -Asia Pacific) : アジアパシフィックイエズス会大学連盟 </p>

大学部門

GL3.0 (部門計画・AP)	2023年度事業計画
5. 持続的発展を力強く支える組織、財務基盤の確立	
(1) Sophia Qualityを実現する教学組織の確立	
①中長期計画を着実に推進できる教学組織のあるべき将来像を検討する	・学長のイニシアティブのもと、大学全体としての戦略的取り組みの企画・推進を行う体制の整備
②教育や研究のコーディネートや支援、戦略推進に特化した教職員の拡充、および特命を帯びた教育・研究・社会貢献・大学運営で活躍する教員の負担軽減の仕組み等を図る	・実践型授業の展開、大学戦略に結びつく研究、公務等における貢献を、教育負担軽減や研究費増額等に反映する制度の検討・導入 ・URAやUEA (University Education Administrator) の配置
③大学諸施策の理解向上に努め、学部の枠を超えた教職員間、大学業務を担当する部局間、教職員間におけるコミュニケーションを活性化させる	・対話機会の充実、コミュニケーションの場・ツールのあり方についての検討と試行
④教育・研究の質保証に係るPDCAサイクル・マネジメント体制を確立する	・学修成果の可視化に係る取り組みの継続 ・大学基準協会による第三期認証評価の受審
(2) 持続的発展のための投資と大学運営の健全性のバランスを考慮した、短・中・長期を見据えた自律的財務・人事施策の確立	
①様々な取り組みの優先順位を明確化し、持続的な大学運営に資する経営資源の管理体制を構築する	・大学全体および学部・研究科等の戦略、大学全体の人員配置、学院としての人件費管理等の観点からの教員の採用・配置や資金配分のあり方・プロセスに係る総合的な検討
②教職協働に基づく大学運営体制を構築し、大学が取り組む事業へ戦略的に経営資源を配分する	・大学業務の多様化・複雑化に対応すべく職員を増強 ・職員の配置に際しての教学部門と人事部門との協議プロセスの検討
③大学部門の中長期の人件費管理のあり方についての再検討を行う	・中長期の人件費のあり方に係る指針の策定
④教育資源の最適配置を行う	・教学組織におけるより効率的な業務改革の実行 ・2024年度以降の開講科目数やカリキュラム展開の見直しに向けた検討 ・非常勤教員の配置の見直しと中期戦略に応じた特任教授等の採用
(3) 教育・研究の新展開、学生支援、社会貢献を充実させるための事業立案と資金調達の実現	
①教育・研究における新展開、学生支援、社会貢献のための人的・財務的資源を生み出す	・既存プログラムの改廃や再構築、非効率な業務の見直しによるコスト削減目標の設定 ・事業継続を合理的に判断する基準やプロセスの策定 ・高校・大学・大学院の連携を強化した新教育体制の構築の検討
②収益源の多様化を図るべく、教育事業の展開や寄付獲得のための推進体制を強化する	・寄付金獲得のための体制強化と共に、想定される寄付者への広報、還元内容等の具体的な立案 ・教育事業による収益拡大を目指した体制の検討、整備

短大部門

GL3.0（部門計画・AP）	2023年度事業計画
1. 地域社会の課題解決を目指す教育研究活動を実践する	
①多文化共生推進のための教育プログラムを強化する	・小学校外国語（英語）教育活動に多文化理解教育への意識を涵養する活動内容を導入
②多文化共生推進のためのサービス・ラーニング活動を強化する	・外国籍市民・児童への日本語・教科支援活動における、新規被学習支援者の開拓 ・地域における学習支援活動への更なる学生参画
③多文化共生をテーマとした学内共同研究プロジェクトを確実に推進する	・学内共同研究プロジェクトに関わる教職員の研究活動への支援と成果発表の機会創出
2. 学生の進路選択を可能とする教育プログラムを充実する	
①企業や編入学先大学で求められる水準まで英語力を強化する	・英語必修科目、英語選択必修科目、英語で学ぶ専門科目での学習とe-learningによる自発的な学習機会の提供
②キャリア講座を充実する	・キャリア講座出席状況等の情報共有によるアドバイザー教員との連携強化 ・学生が効果を実感できる仕組みの構築
③進路に関する個別相談を強化する	・相談しやすい環境の整備 ・就職活動ピーク前に全ての就職希望学生にメールで面談の案内を発信する等、個別の働きかけの強化 ・担当ゼミの全編入希望学生への教員の指導強化
④グローバル社会の課題解決を考える英語プログラムを強化する	・SDGsをテーマとした英語選択必修科目の開講、および英語必修科目へのSDGs関連トピック導入の検討とシラバスへの反映
⑤学生の教養力と社会人基礎力獲得を目指し、読解力と文章作成力を育成する	・読書方法およびレポート作成に関する冊子の作成 ・作成した冊子に基づく「人間学Ⅰ」「基礎ゼミナール」での学生指導の実施
⑥社会が期待しているニーズを把握し、教育課程へ反映する	・企業と編入学先大学への卒業生に関するアンケート結果に基づいたカリキュラム改善の検討
3. 安定的な学校運営のための環境を整備する	
①教育効果を高める学習環境の改善のため、同一法人下における施策の共有と標準化を行う	・秦野キャンパスネットワークの強化
②キャンパスの利活用推進のため、事業外収益を強化する	・外部団体への施設貸出の積極的実施

中等教育部門

栄光学園

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP	2023年度
4 校 共 通 課 題	1.	イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う	(1)	カトリックであること	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定を行うプロセス(共同識別)に健全に参与する雰囲気を学校内につくる キリスト教的価値観、普遍的価値を知り、コミットすることができる倫理・宗教教育を実践する 	
			(2)	安全で健康的な環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメントのない学校環境をつくる 教職員の働き方を検討する Cura Personalisを徹底する 	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメントに関する教職員研修会開催に向けた検討(2025年4月もしくは9月開催を目的) 運営協議会における教職員の勤務時間管理に関する継続的検討
			(3)	Global市民の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒がGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができるカリキュラムを構築する 生徒が世界のGlobal化を体験する機会を設ける 生徒の英会話能力を向上させる 多くの社会問題がGlobalなものであることを理解し、解決する策を考える機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> 海外大学進学希望者へのオリエンテーション及びガイダンスの実施(年2回) 英文推薦書の作成に関するサポート体制構築に向けたアドバイザーとの協議 大学と連携した高校生向けの英語ワークショップ開催に向けた検討(2023年7月開催を目的)
			(4)	被造物に対する配慮	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境の問題を深く学ぶカリキュラムを構築する 地球環境保全のために実践できることを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 4校フォーラムにおける大学と連携した「被造物に対する配慮」をテーマにした四校の論文コンクール開催の提案(ただし、4校フォーラムの対面開催が前提)
			(5)	正義の促進	<ul style="list-style-type: none"> “For Others, With Others”の真の意味を学ぶ機会を設ける “Others”とされる人々と直接触れ合う機会を設ける “Others”と呼ばれる人々がなぜ生まれるのかを深く学び、“Others”の問題を解決するためにどんな方策があるかを考える場を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> 弱い立場に置かれている人々と出会い関係性を構築する機会となる教育プログラム(体験活動)の実施 難民支援施設などとの協力関係構築に向けた協議の場の設定
			(6)	全ての人がアクセス出来る	<ul style="list-style-type: none"> 学校納付金の適正なあり方を検討する 奨学金を充実させる 近隣の人々に開かれた学校とするための方策を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 栄光イエズス会奨学金の継続的支給 栄光イエズス会奨学金の財政的裏付けとなる寄付金制度(未来Eiko募金)の集金力向上に向けた具体策の継続的検討
			(7)	文化相互性	<ul style="list-style-type: none"> 自国の文化を深く学び、世界の多様な文化を知る機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> 古典学習を中心に日本固有の伝統文化を学ぶ機会として、高校3年生徒を対象とした歌舞伎教室の実施 国内には多様な文化や歴史があり、固有の課題もあることへの理解を深める機会として、高校2年生を対象に沖縄の平和学習と地域交流をベースにした学年旅行の実施

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2023年度
4校共通課題			(8)	Globalネットワークに結ばれる	<ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会学校の“Educate Magis”を積極的に活用し、また、その活動に参加する ・イエズス会学校関係以外にも、適切な教育機関などとのNetworkに積極的に繋がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンのイエズス会学校 Sacred Heart School, Areneo de Cebuとの生徒相互派遣プログラムの実施(派遣プログラム:7月、受入プログラム:10月実施) ・米のイエズス会大学Boston CollegeのEver to Excelへの生徒・教員派遣の実施 	
			(9)	人間としての卓越性を追求する	<ul style="list-style-type: none"> ・「4つのC」を身につけることができる6年間の教育プログラムをつくる 		
			(10)	生涯学び続ける	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後も学校と関わりを持ち続けることができる組織をつくる ・同窓会、同期会などを通して、学校で学んだことを振り返り、分かち合う機会を設ける ・日本のみならず世界のイエズス会同窓会組織と結びつきを持ち、イエズス会教育に関する情報を共有できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会執行部交代を機に、同窓会にカトリック信徒同窓会の組織化を提言 ・カトリック信徒同窓会の組織化の進行に合わせた、カトリック信徒卒業生や聖書研究会に参加していた卒業生のための黙想会の企画および参加呼びかけの実施 	
	2.	イエズス会教育を継承する、担い手を養成する	(1)	イエズス会教育を継承する担い手を養成するための機会提供、資料収集、研修会などを企画・実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会教育について、少なくとも一人の教職員に専門的に学ぶ機会を提供する ・カトリック・イエズス会センターと協力して、イエズス会教育を学ぶ資料を豊かにし、随時研修できる機会を設ける ・イエズス会中等教育推進委員会(JSEC)が中心となって、研修会を継続的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会教育もしくはカトリック教育をテーマとした教員研修会の実施(2023年9月) ・毎月一回校長が主催している新任教員研修会の継続的実施(イエズス会教育関連文書の講読し、日々の教育活動と結びつけながら理解を深める) 	
	3.	上智大学との繋がりを持ち続ける	(1)	イエズス会学校で学ぶ生徒が“Ignatian Leadership”を身に付けることができる機会を、上智大学が持つresourcesを積極的に活用できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな学部と連携して、生徒が在学中に専門的な知識を学ぶことができる機会を設ける ・アジア人材養成研究センターなどの大学内の研究機関と連携して、世界のさまざまな課題を学び、体験できる機会を設ける 		
	学校別課題	4.	教育目標や教育内容、および学校施設などの本校の特色をよりよく理解してもらったうえで選ばれるようにする				<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会を3回、オープンキャンパスを数回開催する方向で計画・実施 ・説明会等で実施する参加者アンケートに基づき改善方策を検討 ・学校行事撮影の外部委託と広報用資料としての活用
5.		学校施設の修繕計画に基づき教育環境の整備を行う				<ul style="list-style-type: none"> ・旧修道院改修工事の実施 	
6.		時代の変化に対応する必要がある部分に関しては、校内諸規程の見直し検討を行う				<ul style="list-style-type: none"> ・成績評定・進級規程検討委員会における教務内規(成績評定・進級規程等)の改定に向けた継続的検討 	

六甲学院

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2023年度
4 校 共 通 課 題	1.	イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う	(1)	カトリックであること	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定を行うプロセス(共同識別)に健全に参加する雰囲気を学校内につくる ・キリスト教的価値観、普遍的価値を知り、コミットすることができる倫理・宗教教育を実践する 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な教育活動を見直し改革する基準として、「ミッションステートメント」「UAPs」「10の識別子」について、教員間の浸透および共通理解を深めるための講話や研修機会の設定 ・生徒・教員がキリスト教的・イエズス会教育的な価値観に接し、理解を促進する機会の設定(朝礼・MAGISの日・講演会等) 	
			(2)	安全で健康的な環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントのない学校環境をつくる ・教職員の働き方を検討する ・Cura Personalisを徹底する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「一人ひとりを大切にす教育」の実践に向けた、日常的な学校生活および行事における人権面での具体的な配慮の検討・実践(一人ひとりの個性を尊重し多様性が受け入れられるように) ・「アンガーマネジメント」「ハラスメント」「LGBTQ」等に関する教員研修の実施 ・教職員の過重負担労働を防止するための人員面・勤務時間面での具体的な配慮の検討・実践(クラブ指導や生徒の自習監督等における外部指導員やOBチューター制の導入等) ・阪神淡路大震災を経験した学校として命の大切さを生徒たちに伝える機会の設定 ・研修旅行や社会奉仕活動等を通じた東日本大震災の事実・教訓に学ぶ防災教育の実施 	
			(3)	Global市民の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がGlobalizationの意味や問題を学ぶことができるカリキュラムを構築する ・生徒が世界のGlobal化を体験する機会を設ける ・生徒の英会話能力を向上させる ・多くの社会問題がGlobalなものであることを理解し、解決する策を考える機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・UAPs・SDGsの観点から海外の同世代との交流および生徒が貧困・経済格差・環境等の世界的課題に取り組む機会の設定(シンガポール・マレーシアへの高2研修旅行・ニューヨーク研修・カンボジア研修等の海外研修の実施や、オンライン海外交流等) 	
			(4)	被造物に対する配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境の問題を深く学ぶカリキュラムを構築する ・地球環境保全のために実践できることを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学習と文化祭・海外研修の有機的連携による、日常の中での地球環境への配慮・行動変容を促す教育機会の設定 	

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2023年度
4 校 共 通 課 題			(5)	正義の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・“For Others, With Others”の真の意味を学ぶ機会を設ける ・“Others”とされる人々と直接触れ合う機会を設ける ・“Others”と呼ばれる人々がなぜ生まれるのかを深く学び、“Others”の問題を解決するためにどんな方策があるかを考える場を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の戦争・内戦の歴史に学び、世界の貧困や不公正な社会について具体的に接し、考える機会の設定(コロナ禍で制限してきた社会奉仕活動のできる限り元の形に戻した形での実施、高2のシンガポール・マレーシア研修やカンボジア研修等) ・見聞を広め社会課題を見出すフィールドワーク(希望制・中2)から、課題解決に向けた探求学習としての卒業論文(中3)につながる流れの構築 ・社会の中でFor Others, With Othersとして生きる方向性・指向性を生徒に根付かせるための取組の検討・実践(伯友会の協力を得て、進路の日・OB講演会・職場訪問等を通しての卒業生の生き方や仕事を知る機会の設定、朝礼講話等における卒業生の生き方を紹介する機会の設定等) 	
			(6)	全ての人がアクセス出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・学校納付金の適正なあり方を検討する ・奨学金を充実させる ・近隣の人々に開かれた学校とするための方策を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金の充実とともにイエズス会教育を実践するための教育活動に活かすことのできる寄付金制度の具体的検討および実施に向けた情報収集等の準備 ・近隣の清掃作業や行事への招待、小学生への学習支援、通学時の安全配慮を通じた、近隣の住民との良好な関係の構築と保持 	
			(7)	文化相互性	<ul style="list-style-type: none"> ・自国の文化を深く学び、世界の多様な文化を知る機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・行事における日本の歴史・文化を学ぶ機会の設定 ・国際交流の場における自国の文化を紹介する機会および海外の同世代の生徒から他国の文化を知り、世界の民族や文化の多様性について理解する機会の設定 	

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2023年度
4 校 共 通 課 題			(8)	Globalネットワークに結ばれる	<ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会学校の“Educate Magis”を積極的に活用し、また、その活動に参加する ・イエズス会学校関係以外にも、適切な教育機関などのNetworkに積極的に繋がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する生徒が海外交流に参加できるようにするための具体策の検討(六甲未来募金等の寄付金制度の設定等) ・上智学院として高校生のイエズス会学校への留学制度を設けるための検討の場の構築(上智大学と4校間連携・協力の呼びかけ) ・日本国内での2回目の国際ISLFの実現に向けた4校間の協力体制の検討と構築 ・短期留学生の積極的に受け入れに向けた検討(受け入れ要請があれば) ・生徒および教職員が世界の姉妹校と共にイエズス会教育を実践してゆく意識を共有する機会創出の検討(ニューヨーク研修・カンボジア研修で姉妹校訪問・交流企画の実施、オンライン交流機会の活用等) ・カトリック学校共同の研修会への参加促進および教員世代別の活用方法の検討・実践 ・生徒の他カトリック学校との合同研修会・交流会企画への参加促進 	
			(9)	人間としての卓越性を追求する	<ul style="list-style-type: none"> ・「4つのC」を身につけることができる6年間の教育プログラムをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・4Cs・UAPsを軸とした「他者に仕えるリーダーシップ」の養成に向けた、行事・学習活動の見直しや整理・体系化を検討する場の設定(6年間の教育プログラムを系統立てて学校内外に公示できるよう) ・イエズス会教育の日常実践のための「六甲手帳」活用を生徒に根付かせる取組の推進 	
			(10)	生涯学び続ける	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後も学校と関わりを持ち続けることができる組織をつくる ・同窓会、同期会などを通して、学校で学んだことを振り返り、分かち合う機会を設ける ・日本のみならず世界のイエズス会同窓会組織と結びつきを持ち、イエズス会教育に関する情報を共有できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路の日・OB講演会・職場訪問等の行事への卒業生の協力と、生徒の将来に向けて進路を考える機会の設定(在校時や卒業後の体験を生かした生徒の日常生活の過ごし方のアドバイス等) ・4校の卒業生組織が世界のイエズス会学校・イエズス会卒業生とつながる機会の構築(上智学院として4校が連携して卒業生組織に情報提供するための体制整備、4校卒業生同士の交流への協力等) 	

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2023年度
4校共通課題	2.	イエズス会教育を継承する、担い手を養成する	(1)	イエズス会教育を継承する担い手を養成するための機会提供、資料収集、研修会などを企画・実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会教育について、少なくとも一人の教職員に専門的に学ぶ機会を提供する ・カトリック・イエズス会センターと協力して、イエズス会教育を学ぶ資料を豊かにし、随時研修できる機会を設ける ・イエズス会中等教育推進委員会(JSEC)が中心となって、研修会を継続的に行う 		<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教職員がイエズス会教育の担い手であることを自覚するための講話や研修機会の設定 ・イエズス会教育の継承者の担い手養成に関する中等教育事務室・JSEC・校長(4校会)合同による検討の場の設定
	3.	上智大学との繋がりを持ち続ける	(1)	イエズス会学校で学ぶ生徒が“Ignatian Leadership”を身に着けることができる機会を、上智大学が持つresourcesを積極的に活用できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな学部と連携して、生徒が在学中に専門的な知識を学ぶことができる機会を設ける 		<ul style="list-style-type: none"> ・4校の引率教職員や参加生徒がカンボジアでの体験を持ち寄って分かち合う機会の設定(夏期休暇中等)
					<ul style="list-style-type: none"> ・アジア人材養成研究センターなどの大学内の研究機関と連携して、世界のさまざまな課題を学び、体験できる機会を設ける 		<ul style="list-style-type: none"> ・東ティモールへの生徒の研修・体験学習について将来的に4校合同で行う可能性を検討する場の設定 ・生徒が上智大学の教員から直接学ぶ機会の検討および上智大学との協議(倫理・宗教・人間学等をテーマにした専門的な講義および社会正義・環境課題・識別等、UAPsと関わる講義等) ・上智大学主催のワークショップ・講座・公開企画に生徒が4校生徒と共に参加する方策の検討および上智大学との協議
学校別課題	4.	教育目標や教育内容、および学校施設などの本校の特色をよりよく理解してもらったうえで、選ばれる学校であり続ける。					
	5.	時代の変化に対応する必要がある部分に関しては校内諸規定等の見直し検討を行う					
	6.	学校施設の修繕計画に基づき教育環境の整備を行う					

広島学院

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2023年度
4校共通課題	1.	イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う	(1)	カトリックであること	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定を行うプロセス(共同識別)に健全に参加する雰囲気を学校内につくる ・キリスト教的価値観、普遍的価値を知り、コミットすることができる倫理・宗教教育を実践する 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教関連行事、ILプログラム、カトリック研究会、ボランティア活動や国際交流などの教育活動におけるイグナチオ的教授法に基づいたイエズス会教育の実践(特に「内省」の実践) 	
			(2)	安全で健康的な環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントのない学校環境をつくる ・教職員の働き方を検討する ・Cura Personalisを徹底する 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修におけるハラスメントに関する研修の実施(8月) ・体罰やいじめに関するアンケートの実施(2月) ・カウンセリングドクター・学校カウンセラー、保健室等と連携の推進 	
			(3)	Global市民の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができるカリキュラムを構築する ・生徒が世界のGlobal化を体験する機会を設ける ・生徒の英会話能力を向上させる ・多くの社会問題がGlobalなものであることを理解し、解決する策を考える機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン・カンボジア・アメリカの国際交流プログラムの実施 ・英語の授業におけるオンラインスピーキングトレーニングの実施(中3、高1で年間20時間程) ・中3ILにおける世界の貧困や差別、紛争と難民などの問題について学ぶ機会の設定(フィリピンや東ティモールの姉妹校支援のための街頭募金に向けて) 	
			(4)	被造物に対する配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境の問題を深く学ぶカリキュラムを構築する ・地球環境保全のために実践できることを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ILゼミにおける環境問題についての学びと身近なエシカルな取り組みの実践 ・美化委員会活動の充実(美化指導を通し、自らが学んでいる環境への感謝する機会の設定) 	
			(5)	正義の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・“For Others, With Others”の真の意味を学ぶ機会を設ける ・“Others”とされる人々と直接触れ合う機会を設ける ・“Others”と呼ばれる人々がなぜ生まれるのかを深く学び、“Others”の問題を解決するためにどんな方策があるかを考える場を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・中1ILにおけるイエズス会のミッションやアルベ神父に関する学びの実施 ・中2ILにおける障がい者の立場や支援方法についての体験的な学びの実施 ・中3ILにおける世界の貧困や紛争などで困っている人々についての学びの実施 ・中学生の街頭募金への参画(中3を12月に参画させる) ・高校生によるフィリピン・カンボジアとの国際交流および被災地や釜ヶ崎、児童養護施設などにおけるボランティア活動への参加と奉仕精神の実践(可能な限りコロナ以前の形で実施) ・生徒会活動と連携した地域ボランティア活動の推進 	
			(6)	全ての人がアクセス出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・学校納付金の適正なあり方を検討する ・奨学金を充実させる ・近隣の人々に開かれた学校とするための方策を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島学院未来募金の創設 ・広報部におけるSNSを活用した学校情報の発信の具体的検討 	

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2023年度
4校共通課題			(7)	文化相互性	<ul style="list-style-type: none"> ・自国の文化を深く学び、世界の多様な文化を知る機会を設ける 		<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・古典の授業における自国文化に関する理解の深化 ・行事の準備授業における自国および国際理解の深化
			(8)	Globalネットワークに結ばれる	<ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会学校の“Educate Magis”を積極的に活用し、また、その活動に参加する ・イエズス会学校関係以外にも、適切な教育機関などのNetworkに積極的に繋がる 		
			(9)	人間としての卓越性を追求する	<ul style="list-style-type: none"> ・「4つのC」を身につけることができる6年間の教育プログラムをつくる 		
			(10)	生涯学び続ける	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後も学校と関わりを持ち続けることができる組織をつくる ・同窓会、同期会などを通して、学校で学んだことを振り返り、分かち合う機会を設ける ・日本のみならず世界のイエズス会同窓会組織と結びつきを持ち、イエズス会教育に関する情報を共有できるようにする 		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象カトリック研究会を通じた、保護者に対するイエズス会教育の理解の拡大(例年通り実施)
	2.	イエズス会教育を継承する、担い手を養成する	(1)	イエズス会教育を継承する担い手を養成するための機会提供、資料収集、研修会などを企画・実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会教育について、少なくとも一人の教職員に専門的に学ぶ機会を提供する ・カトリック・イエズス会センターと協力して、イエズス会教育を学ぶ資料を豊かにし、随時研修できる機会を設ける ・イエズス会中等教育推進委員会(JSEC)が中心となって、研修会を継続的に行う 		<ul style="list-style-type: none"> ・若手教員フロンティア研修(ボランティア・社会正義活動の視察)の活用(例年通り実施) ・生徒研修を引率する若手教員の養成(積極的な参加の働きかけの実施) ・各種研修(若手教員向けの研修A・中堅教員向けの研修B・倫理・宗教担当教員向けの倫理宗教研修会)への参加(例年通り実施)
	3.	上智大学との繋がりを持ち続ける	(1)	イエズス会学校で学ぶ生徒が“Ignatian Leadership”を身につけることができる機会を、上智大学が持つresourcesを積極的に活用できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな学部と連携して、生徒が在学中に専門的な知識を学ぶことができる機会を設ける ・アジア人材養成研究センターなどの大学内の研究機関と連携して、世界のさまざまな課題を学び、体験できる機会を設ける 		<ul style="list-style-type: none"> ・留学生と平和学習・環境問題などについて交流し、学びあう場の創出に関する上智大学との協議の実施

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP	2023年度
学校別課題	4.	生徒の進路志望を実現させる学校になる(生徒の学力向上に常に努める／men for others の理解に導く)				<ul style="list-style-type: none"> 各教科における生徒間の学力格差に応じた教科指導のあり方の検討 ICT教育に関する研修会の企画
	5.	生き生きと過ごせる学校になる(様々な挑戦の機会を作る)				<ul style="list-style-type: none"> 今までの形にとらわれない部活動のあり方の検討と実施
	6.	1人1人が「ここを居てもいい」という実感の持てる学校になる(生徒1人1人の持つ特性や環境に可能な限り配慮する)				<ul style="list-style-type: none"> 教育相談係と学年の情報交換および連携の実践
	7.	ICTを有効に活用する(ICT委員を中心に、課題を検討し、有効活用を推進する)				<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の有効利用の検討と推進 ICT教育に関する研修会への教員の派遣
	8.	施設設備の経年劣化への対応を推進する				<ul style="list-style-type: none"> 施設整備計画の推進

上智福岡

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2023年度
4 校 共 通 課 題	1.	イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う	(1)	カトリックであること	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定を行うプロセス(共同識別)に健全に参加する雰囲気を学校内につくる ・キリスト教的価値観、普遍的価値を知り、コミットすることができる倫理・宗教教育を実践する 		<ul style="list-style-type: none"> ・意見の吸い上げ・応答プロセス(意思決定プロセス)に関する各種取組の実施(年度当初の意識付けと具体的な行動目標の設定、常日頃からの意識喚起、年度末の振り返りと次年度に向けた行動目標の設定) ・2024年度以降の高1～高3SFOカリキュラム刷新に向けた検討と新たなシラバスづくりの実践(より生徒が弱い立場に置かれた人々や様々な社会課題と出会い、共感や使命感からより良い社会作りへの行動に向かわせる新たなカリキュラムとシラバスの検討)
			(2)	安全で健康的な環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントのない学校環境をつくる ・教職員の働き方を検討する ・Cura Personalisを徹底する 		<ul style="list-style-type: none"> ・意見の吸い上げ・応答プロセス(意思決定プロセス)に関する各種取組の実施(年度当初の意識付けと具体的な行動目標の設定、常日頃からの意識喚起、年度末の振り返りと次年度に向けた行動目標の設定) ・ハラスメント研修の実施(法人の協力の下、年度初めに実施) ・ハラスメントの相談窓口に関する情報掲載に適切な媒体の検討および周知徹底 ・教職員の働き方改革の推進(1,36協定の早期締結 2,介護育児休暇等の規定を制定・施行 3,部削減及び部活動顧問増員の検討 4,教務支援システム、採点ソフト等の導入、削減できる業務の洗い出し。2024年度に向けた19:30職員室施設時間の検討) ・管理職による年2回の教職員へのヒアリングの継続と運営協議会内での情報共有
			(3)	Global市民の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができるカリキュラムを構築する ・生徒が世界のGlobal化を体験する機会を設ける ・生徒の英会話能力を向上させる ・多くの社会問題がGlobalなものであることを理解し、解決する策を考える機会を設ける 		<ul style="list-style-type: none"> ・各教科における2024年度以降のカリキュラム刷新に向けた検討と新たなシラバスづくりの実践(生徒がより現実世界とかかわりGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができる新たなカリキュラムとシラバスの検討) ・海外への語学研修やスタディーツアー実施に向けた準備と実践(海外への語学研修およびカンボジアスタディーツアーの再開とマイクロネシアスタディーツアーの開始) ・海外姉妹校相互交流担当者の配置の検討と交流の再開(ただし、コロナの状況次第) ・中3語学研修、英語暗唱・スピーチ大会、英語科研究授業などの継続的実践(上智大学への協力要請含む)

中長期計画				アクションプラン(AP)	事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP	2023年度
4 校 共 通 課 題			(4)	被造物に対する配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境の問題を深く学ぶカリキュラムを構築する ・地球環境保全のために実践できることを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科における2024年度以降のカリキュラム刷新に向けた検討と新たなシラバスづくりの実践（生徒がより現実世界とかかわりGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができる新たなカリキュラムとシラバスの検討） ・校務分掌内でのSDGs推進担当者の配置と、次年度生徒・教職員が実施する取り組みの検討および生徒会への働きかけの実践
			(5)	正義の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・“For Others, With Others”の真の意味を学ぶ機会を設ける ・“Others”とされる人々と直接触れ合う機会を設ける ・“Others”と呼ばれる人々がなぜ生まれるのかを深く学び、“Others”の問題を解決するためにどんな方策があるかを考える場を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度以降の高1～高3SFOカリキュラム刷新に向けた検討と新たなシラバスづくりの実践（より生徒が弱い立場に置かれた人々や様々な社会課題と出会い、共感や使命感からより良い社会作りへの行動に向かわせる新たなカリキュラムとシラバスの検討） ・各教科における2024年度以降のカリキュラム刷新に向けた検討と新たなシラバスづくりの実践（生徒がより現実世界とかかわりGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができる新たなカリキュラムとシラバスの検討） ・宗教部における実施可能なボランティア体験機会の検討 ・2024年度以降に刷新する高1～3SFOカリキュラムへのボランティア体験の組み込みの検討
			(6)	全ての人がアクセス出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・学校納付金の適正なあり方を検討する ・奨学金を充実させる ・近隣の人々に開かれた学校とするための方策を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度授業料改訂に向けた準備・検討 ・経済的理由で就学が困難な生徒への現存の奨学金制度の継続的適用 ・Instagramによる情報発信体制の整備と発信開始、2学期末時点での情報発信体制の検証および次年度以降継続の可否の検討
			(7)	文化相互性	<ul style="list-style-type: none"> ・自国の文化を深く学び、世界の多様な文化を知る機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外への語学研修やスタディーツアー実施に向けた準備と実践（海外への語学研修およびカンボジアスタディーツアーの再開とマイクロネシアスタディーツアーの開始） ・各教科における2024年度以降のカリキュラム刷新に向けた検討と新たなシラバスづくりの実践（生徒がより日本文化を学ぶことができるシラバスを考慮した新たなカリキュラムとシラバスの検討）
			(8)	Globalネットワークに結ばれる	<ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会学校の“Educate Magis”を積極的に活用し、また、その活動に参加する ・イエズス会学校関係以外にも、適切な教育機関などとのNetworkに積極的に繋がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌内でのJSEC活動紹介担当者の配置、各活動への教職員の参加促進

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP	2023年度	
4 校 共 通 課 題			(9)	人間としての卓越性を追求する	・「4つのC」を身につけることができる6年間の教育プログラムをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度以降の高1～高3SFOカリキュラム刷新に向けた検討と新たなシラバスづくりの実践（より生徒が弱い立場に置かれた人々や様々な社会課題と出会い、共感や使命感からより良い社会作りへの行動に向かわせる新たなカリキュラムとシラバスの検討） ・各教科における2024年度以降のカリキュラム刷新に向けた検討と新たなシラバスづくりの実践（生徒がより現実世界とかかわりGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができる新たなカリキュラムとシラバスの検討） 	
			(10)	生涯学び続ける	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後も学校と関わりを持ち続けることができる組織をつくる ・同窓会、同期会などを通して、学校で学んだことを振り返り、分かち合う機会を設ける ・日本のみならず世界のイエズス会同窓会組織と結びつきを持ち、イエズス会教育に関する情報を共有できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学び続ける場の創出に向けた同窓会との協議の場の設定 	
	2.	イエズス会教育を継承する、担い手を養成する	(1)	イエズス会教育を継承する担い手を養成するための機会提供、資料収集、研修会などを企画・実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会教育について、少なくとも一人の教職員に専門的に学ぶ機会を提供する ・カトリック・イエズス会センターと協力して、イエズス会教育を学ぶ資料を豊かにし、随時研修できる機会を設ける ・イエズス会中等教育推進委員会(JSEC)が中心となって、研修会を継続的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会教育について専門的に学ぶ機会への教員派遣の具体的な検討(派遣にふさわしい教員とその派遣時期の検討) ・国内外で実施されるイエズス会教員・生徒関連の研修企画への教員の派遣 ・年2回の教職員研修会における、イエズス会・カトリック教育に関するテーマの取り上げ(校長は毎回、JSECは夏に実施) ・イエズス会教育に関する新任研修の継続と内容の充実に向けた検討 	
	3.	上智大学との繋がりを持ち続ける	(1)	イエズス会学校で学ぶ生徒が“Ignatian Leadership”を身に着けることができる機会を、上智大学が持つresourcesを積極的に活用できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな学部と連携して、生徒が在学中に専門的な知識を学ぶことができる機会を設ける ・アジア人材養成研究センターなどの大学内の研究機関と連携して、世界のさまざまな課題を学び、体験できる機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌内でのSophia GED企画担当者の配置、各活動への生徒の参加促進 ・上智大学出張授業の実施体制の刷新(大学との協議開始) ・中3理科課題解決学習を中心としたSFOにおける2024年度のカリキュラム刷新に向けた検討(上智大学と校長・理科学の協議開始と新たな実施体制の検討) 	

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP	2023年度
学校別課題	4.	高3の25%が現役で国公立大に合格する学校になる	(1)	シラバス・授業の質を向上させる		<ul style="list-style-type: none"> ・教頭主導による授業研究日を含め各教科年2回研究授業の実施(教科所属人数により増減可。各教員最低3年に1回程度を目安とする) ・授業研究日の設定(指導助言者の招聘と全教員の参観および検討会の実施) ・各教科における指導助言者の招聘の奨励
			(2)	理科力の強化を通して理系合格者を増やす		<ul style="list-style-type: none"> ・2029年(または2026)度より高2文系生物化学履修とする方向での検討開始 ・非常勤実験助手の採用
	5.	充実した教育環境整備にむけ特別棟1階を改築する				<ul style="list-style-type: none"> ・校地整理の実施と寄附金募集方法の検討 ・特別棟1階のレイアウト変更の検討と実施
	6.	予算規模に適正な範囲で最大限の専任教員を計画的に採用する(学年所属教員8名を目指す)				<ul style="list-style-type: none"> ・予算に見合う専任教員適正人数を検討したうえでの専任教員採用 ・英語、数学、社会、理科各1名の常勤講師採用
7.	創立100周年(2032年)に向けた準備を進める(記念行事の概要を固め、準備を進める)					

法人部門

GL3.0（部門計画・AP）	2023年度事業計画
1. 持続可能な社会に貢献し、社会的責任を果たすための体制を強化する	
（1）カトリック・イエズス会教育の継承、浸透	
①イエズス会学校およびイエズス会教育の担い手を養成する研修制度・プログラムを検討し、実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上智学院教職員を対象としたJesuit Studies Program（Boston College）研修制度を導入するための情報収集、現地調査、プログラムの検討 ・ JSEC（Jesuit Secondary Education Committee）との連携による研修プログラムの検討 ・ ISLF（Ignatian Student Leadership Forum）国内版および海外版の企画立案 ・ カトリック中等教育機関へのカトリック教育に係る支援の検討
②カトリック・イエズス会センターの体制を強化し、活動の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・ カトリック・イエズス会センター各部門の活性化および既存組織の検証実施 ・ イエズス会およびカトリック教育を前提とした教職員対象企画の立案 ・ 教職員および学生を対象とした「黙想会」「霊操体験研修」等の開催
③イエズス会および各学校間の連携を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・ イエズス会日本管区および関連組織との協働企画立案・実施 ・ 教皇フランシスコ来学記念基金を活用した社会貢献活動
（2）上智学院および設置校の歴史の理解、継承、浸透	
①大学および中高4校のアーカイブス史料の継続的な収集・整理とデジタル化を推進し活用すると共に、収集・整理・活用を担う教職員（アーキビスト）を養成する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育・授業支援：大学院生との協働による資料整理や授業への資料提供 ・ 研究支援：研究者への情報共有を目的としたデータベース上での目録公開の検討 ・ 教職員研修：自校史への興味・関心を促し、未来に残すための研修の実施
②アーカイブス史料を活用した自校史の編纂および公表と共に、それらを活用した自校史教育・研修プログラムを検討し、実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上智学院設置校と関わりの深いイエズス会員へのヒアリングを含めた史料収集 ・ 上智大学史編纂の企画案の策定 ・ 既存の出版物、記事の系統的整理と公開方法の検討
③アーカイブス史料を活用し、ステークホルダーや地域・社会へ積極的に発信すると共に、コミュニケーション機会を拡大する	<ul style="list-style-type: none"> ・ （ソフィアタワー竣工から10年を機に2027年度に向けて）地域連携・社会連携を視野に入れたソフィアタワー1階展示スペースの見直し ・ アーカイブズ内展示スペースの見直し ・ 大学内の様々な場所でキャンパス・地域・建物の変遷や関わり等を感じることができる仕組みの検討 ・ 文書や映像以外の物の公開手段の検討 ・ 本学院来訪者に係る歴史的・精神的価値のある史資料および記録の保存

法人部門

GL3.0（部門計画・AP）	2023年度事業計画
（3）経営判断の精緻化（IR活用型マネジメントの徹底および柔軟かつ迅速な意思決定の実現）	
①中長期計画の推進体制およびプロセスの確立、特に適切な進捗管理を実施し、環境変化に応じた柔軟な計画見直しプロセスを導入する	<ul style="list-style-type: none"> ・全体統括会議の下、教職員参加型による各部門単位での施策実行 ・中長期計画進捗状況のモニタリング実施
②IR志向教職員を育成すると共に、意思決定プロセスにおいてIRを活用したEBDM※の実践により、IR活用型マネジメントを実現する ※EBDM（evidence-based decision making）：根拠に基づく意思決定	<ul style="list-style-type: none"> ・政策決定、意思決定におけるIRデータ活用による分析結果の活用 ・更なるEBDM実践に向けた研修の実施
③社会変化に対応した新たな教育体制・支援体制を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的弱者を支援する教育プログラム実施に向けた具体的検討の開始 ・難民支援および受け入れに係る方針策定 ・秦野キャンパスの更なる利活用方策の検討
（4）ガバナンスの強化と、コンプライアンスおよびリスクマネジメントの徹底	
①権限・役割の明確化や意思決定プロセスの見える化の促進など、内部統制が有効に機能した学校法人運営体制を確立する	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会、理事会、監事の構成、選任方法等の見直し ・決裁権限規程運用状況の検証実施 ・評議員選出プロセスの確立
②法人運営・学校運営を担うマネジメント人材を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・理事、評議員、監事を対象とした研修の実施
③コンプライアンスを徹底し、実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・学内規程運営管理の徹底および運用プロセスの再確認 ・コンプライアンスに関する研修計画の立案と、継続的に学院内に定着するための施策の検討
④組織的かつ計画的なリスクマネジメント（リスクの未然（再発）防止、BCP※を含む危機対策の事前準備）を推進し、精度向上を図る ※BCP（Business Continuity Plan）：事業継続計画	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントのPDCAサイクル（重要リスクの選定、対策の実施、実施状況の評価、改善）の実施 ・進捗不振の重要リスクの対策推進 ・情報セキュリティ対策・教育の継続的な実施
（5）ステークホルダーとの連携強化（繋がりを強める継続的かつ効果的なコミュニケーションの実現）	
①自治体・企業・各種団体との新たな連携した事業を検討し、地域貢献・社会貢献を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都・千代田区等の近隣自治体（行政）からの期待やニーズに関する情報収集と実態把握の開始 ・既存の地域課題に対する学生による社会貢献活動（改善提案・ボランティア活動など）の発展と新規交流・協力事業の模索
②情報公表方法・媒体などを再検討し、戦略的なパブリックリレーションズを展開する	<ul style="list-style-type: none"> ・公式サイトリニューアル後のサイトの安定的運用に向けた改善継続 ・法人サイトおよび学部学科等サイトのリニューアル着手 ・公式サイトにおける日英両言語での情報発信体制の整備 ・レピュテーションリスク回避のためのトレーニングセミナー等の実施
③学院内の情報収集・管理、情報公表に関する体制を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・文書管理規程等の関連規程の見直し ・情報公開規程制定の是非の検討
④卒業生・同窓生との対話を促進し、連携した事業・教育プログラムを展開する	<ul style="list-style-type: none"> ・母校への帰属・支援意識を促進する双方向イベントの実施や対話機会の充実 ・卒業生活躍情報のタイムリーな獲得体制の確立および該当卒業生との接点作りの強化

法人部門

GL3.0（部門計画・AP）	2023年度事業計画
2. 豊かな学びを支える安心・安全・快適なキャンパス環境を整備する	
（1）全ての人々に寄り添い、ひとりひとりを大切にする組織・風土の実現	
①ユニバーサルデザインを実現するために新たな施策を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年度実施学生調査の分析 ・ キャンパスサインの新規設置および更新の継続
②DEI&Bを更に推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・ DEI&Bに係るガイドラインの策定 ・ ウーマンエンパワメントを推進する学内諸制度の広報強化、制度改善の取り組み実施
③教職員・学生・生徒に対する意識改革に資する企画・プログラムを実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生および生徒／教職員の連携、企業・自治体等の学校外組織との共働による企画の実施 ・ キャンパス内における交流および学習スペースの設置
（2）インクルーシブかつサステナブルな学校・職場環境（施設・設備等）の整備（ラウドアート・シを意識する）	
①カーボンニュートラル対応など、GX（グリーン・トランスフォーメーション）・SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）・地球環境問題解決に貢献する学校環境を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物量の削減とリサイクルの推進 ・ CO2削減のために高効率器具への更新を推進 ・ キャンパス使用電力の再生可能エネルギー実質100%に向けた検討の継続
②すべての人々にとって安心・安全・快適な施設・設備を整備し、運用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外構改修工事（継続）にて、各建物と構内道路との間にある段差解消。また、環境負荷の少ない素材の採用 ・ 改修工事等で既存の設備更新における地球環境問題を考慮した検討・選定の実施 ・ オールジェンダー利用を想定したインクルーシブトイレの設置
③建物老朽化に伴う更新計画を立案し、実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7号館改修の実施 ・ 四谷キャンパス南東地区の再整備検討
④各学校におけるDXを促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統一感のある学部・研究科等の紹介サイト構築 ・ 複合機導入計画の最終段階の実施（学生用プリンタ・コピー機の統合・設置計画策定、サービス・運用体制の確立） ・ 2025年度の基盤系システム更新準備の推進（システム移行に関する概要計画策定）

法人部門

GL3.0（部門計画・AP）	2023年度事業計画
3. 教育研究の持続的発展を可能とする財務基盤をより一層強化する	
（1）奨学金等基金、キャンパス整備、戦略的な教育研究事業に対する財源の確保	
①学生支援および研究促進のための基金を拡充する	・ 経常収支差額等から基金への継続的な組入
②安心・安全・快適なキャンパス整備のための減価償却引当特定資産を積み増す	・ 経常収支差額等から減価償却引当特定資産への継続的な組入
（2）財政基盤強化を可能とする経常収支差額の確保（収支バランスの最適化）	
①安定的な収入を確保するとともに、最適収支バランスを目指した予算策定を行う	・ 予算決算の乖離状況分析、収支差額を生み出せる予算策定方法検討 ・ 経常収支差額10億円の確保
②積極的な募金活動を実施する	・ 募金趣旨・用途に応じた更なる能動的なアプローチの開始 ・ 事業計画にリンクした用途メニューの開発 ・ 学内執行部への理解・賛同による獲得プロセスへの参画促進
③学生生徒等納付金以外の収入を確保する	・ 資産運用方針の不断の検証と、高度なリスク管理に基づく資産運用収入の確保 ・ SCS（株式会社ソフィアキャンパスサポート）への業務委託および学院業務支援の推進 ・ SCSの業務拡大と収益性の確保
④経費削減を恒常的に取り組む	・ カーボンニュートラルへの対応に伴うコスト増抑制策の検討

法人部門

GL3.0（部門計画・AP）	2023年度事業計画
4. 組織力を高める人事政策を実行する	
（1）各設置校における教育・研究力をさらに高める新しい組織・制度の整備	
①多様な人材を確保し、教学組織の中長期計画実現を支援する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学設置基準改正（教育研究実施組織の編成、教職協働の実質化）への対応を含め、教学執行部との方向性確認を前提とした教学組織（学部学科、研究科、研究所）の再編案の提言 ・ 教学組織（学部学科、研究科、研究所）の自律性を尊重した組織目標設定・評価および管理の制度設計
②上智学院の目指す教育、研究、学校運営、社会貢献を推進するための職員のパフォーマンス向上を実現する施策を展開し、経営支援機能を強化する	<p>職員の帰属意識を高める人事諸制度の見直し</p> <p>（採用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学院運営における重点領域への職員配置を実現する戦略的採用施策の展開 ・ 改革推進を目的とした専門職型経験者採用の実行 ・ 人材の多様化による組織の活性化 <p>（教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織開発方針に則したSD（Staff Development）の実行（課題発見/設定、解決型人材育成） <p>（配置）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来のコア人材育成の実現 ・ 専任職員の職層等級と配置の最適化 <p>（評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務を通じた人材育成の実現と組織内コミュニケーションの活性化 <p>（処遇）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果に報いる報酬制度の策定と実行
③教職員の帰属意識を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDを通じた働きがい・働きやすさを実現する施策の立案と実行 ・ 教職協働プロジェクトによるイノベーションのより一層の推進 ・ 健康経営（安全・衛生、心身の健康）を意識した施策の立案と実行
（2）将来的な財務状況を踏まえた人事計画の策定と実行	
①上智学院の持続可能な発展に資する人事施策を実行する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的な動向を踏まえた、総額人件費構造にかかわるあるべき姿の検討 ・ 学院の運営コストの最適化にかかわる施策の実行 ・ 職員の生産性向上策の実行
②学院および大学等の発展に資する人事計画の実行を支援する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教学部門の人件費管理方針（経常収支差額、人件費比率、人件費依存率等のモニタリングと長期予測を踏まえた）の策定および執行状況の評価 ・ 大学が取り組む新たな事業への戦略的な人件費配分案の策定支援 ・ 許容可能な総額人件費の観点に基づく、事業継続を判断する基準の策定
③労働行政の動向を踏まえた人事施策を実行する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働時間管理の適正化による人件費増加への対応施策の立案 ・ 同一労働同一賃金等への対応に伴う人件費増加への対応策の立案と実行 ・ 社会保険料、労働保険料等の法人負担率上昇への対応策の立案 ・ 高齢者雇用安定法改正に対応した人事施策の立案
（3）中等教育部門と高等教育部門との連携を深める	
①人事・労務管理にかかわる課題へ対応する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中等教育部門における諸課題の整理と解決策の実施
②中等教育事務室の機能を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門領域に応じた専任職員の兼務発令 ・ 中等教育部門、高等教育部門との人事交流施策の立案と実行

2023年度予算編成の基本方針

【基本方針】

「上智学院グラウンド・レイアウト」に示される重要課題を推進するためには、限られた財源の最適配分（予算化）が必要です。

重要課題に基づく新たな教育研究の展開や、キャンパス整備計画（中等教育部門を含む）に基づく教育研究環境の整備改善など、財政的にインパクトのある新規課題を抱えている現状においては、最適化のために、新規プログラムに対する適否判断だけでなく、既存事業とその予算を今一度見直し、既得権・前例・慣習等にとらわれることなく、適正かつ公正な必要最低限の予算を編成及び執行しなければなりません。

また、学校法人の収支は均衡していることが求められ、特に、本学院においては当年度収支差額の均衡に努め、財政の健全化を図ることが喫緊の課題です。その課題への方策と、教育研究充実のための予算措置という、相反するとも言える両者への効果的対応を鋭意検討し、具体的な取り組みを推進していく必要があります。

以上を踏まえ、次年度の予算編成にあたっては、以下の点を基本方針とすることを学院全体の共通認識とします。

1. 事業計画に則った予算立案と適正執行

全教職員が、学校法人上智学院の重要課題と財政状況への理解を深め、事業計画に則った適正な予算を立案し、学納金や経常費補助金等を財源とする予算を適正に執行する必要があります。

予算執行にあたっては、執行金額の多寡にかかわらず、常に合规性・経済性・有効性の観点から個々の取引を厳正に行うこととします。

2. 重要課題への予算の重点化

「上智学院グラウンド・レイアウト」に示される重要課題に係る教育研究活動及び基盤整備等の諸施策に対して重点的に予算を配分します。

3. 収支改善による収支均衡の実現

業務の見直しによる効率化を更に徹底し、収支の均衡に一層努めます。

また、各事業の収支を的確に把握し、不採算事業への具体的な対応を引き続き検討することとし、収入増加策及び支出削減策を推進することとします。

4. 経費削減と最小予算による最大効果の発揮

教育・研究活動に係る経費は、新たな取り組みを積極的に推進するため、既存事業の経費削減を「聖域」なく検討・実施することとします。

また、限られた予算の効果的な使用と恒常的経費の削減にさらに努め、より少ない予算でより大きな効果を得られるよう創意工夫することとします。

5. 人件費支出の適正化

事業の「選択」と「集中」を促進し、業務の合理化・効率化・外部委託化等により、人件費支出の適正化を図ります。

6. 学費収入の確保

文部科学省の入学定員管理の厳格化や18歳人口減少の顕在化等の厳しい状況の中、財政的根幹を成す学費収入を如何にして安定的に確保するのか、これを重要課題として取り組むこととします。

7. 外部資金の積極的な獲得

外部資金の獲得を積極的に進め、新たな取り組みを含めた諸活動の財源については、自ら確保することを原則とします。

8. 学内研究費制度の実績評価と最適化

研究活動にかかるP D C Aサイクルの一環において、研究評価委員会による評価結果等を踏まえ、創出された研究成果の発信状況や研究費制度の活用状況等に鑑みた制度の見直し及び運用改善を図ります。研究拠点の形成・確立とともに、研究成果発信の促進及び若手研究者の育成支援を重要課題として認識し、研究費制度の最適化をさらに進めていきます。

9. 部門別及び目的別収支管理による選択と集中の推進

安定的な財政基盤を構築し、「上智学院グランド・レイアウト」に示される重要課題を円滑に推進するためには、部門別及び目的別の収支状況を適切に把握し、評価・見直しを常に行うことにより、選択と集中を進めることが不可欠です。そのため、今後も部門別・目的別予算申請を実施します。

2023年度資金収支予算（学院）

（単位：千円）

収入の部			
科 目	本年度予算	前年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入	19,245,068	18,747,865	497,203
手数料収入	987,763	987,806	△ 43
寄付金収入	771,912	550,646	221,266
補助金収入	4,197,285	4,165,928	31,357
資産売却収入	3,000,000	2,950,000	50,000
付随事業・収益事業収入	1,356,122	1,375,009	△ 18,887
受取利息・配当金収入	719,178	772,586	△ 53,408
雑収入	1,017,771	1,016,431	1,340
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	4,522,766	4,114,353	408,413
その他の収入	6,982,153	7,104,417	△ 122,264
資金収入調整勘定	△ 5,087,017	△ 4,734,265	△ 352,752
前年度繰越支払資金	9,742,288	8,539,689	1,202,599
収入の部合計	47,455,289	45,590,465	1,864,824

支出の部			
科 目	本年度予算	前年度予算	増 減
人件費支出	15,460,510	15,406,970	53,540
教育研究経費支出	7,695,396	7,343,264	352,132
管理経費支出	1,663,579	1,540,695	122,884
借入金等利息支出	82,717	98,386	△ 15,669
借入金等返済支出	993,236	1,204,902	△ 211,666
施設関係支出	1,024,368	1,323,035	△ 298,667
設備関係支出	727,272	667,994	59,278
資産運用支出	9,653,387	8,178,780	1,474,607
その他の支出	783,976	914,266	△ 130,290
予備費	225,600	225,600	0
資金支出調整勘定	△ 523,045	△ 523,551	506
翌年度繰越支払資金	9,668,293	9,210,124	458,169
支出の部合計	47,455,289	45,590,465	1,864,824

2023年度事業活動収支予算（学院）

（単位：千円）

		科 目	2023年度予算
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	19,245,068
		手数料	987,763
		寄付金	718,308
		経常費等補助金	4,184,085
		付随事業収入	906,122
		雑収入	1,018,266
		教育活動収入計	27,059,612
	支事業の活動の部	人件費	15,406,779
		教育研究経費	10,263,769
		管理経費	1,878,656
		教育活動支出計	27,549,204
教育活動収支差額			△ 489,592
教育活動外収支	収事業の活動の部	受取利息・配当金	719,178
		その他の教育活動外収入	450,000
		教育活動外収入計	1,169,178
	支事業の活動の部	借入金等利息	82,717
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	82,717
教育活動外収支差額			1,086,461
経常収支差額			596,869
特別収支	収事業の活動の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入（施設設備指定分及び現物寄付含む）	131,284
		特別収入計	131,284
	支事業の活動の部	資産処分差額	317,766
		その他の特別支出	0
		特別支出計	317,766
特別収支差額			△ 186,482
【予備費】			225,600
基本金組入前当年度収支差額			184,787
基本金組入額			△ 1,959,613
当年度収支差額			△ 1,774,826
前年度繰越収支差額			△ 10,036,747
基本金取崩額			192,166
翌年度繰越収支差額			△ 11,619,407
(参考)			
事業活動収入計			28,360,074
事業活動支出計			28,175,287
事業活動収支差額			184,787